

健全マッサージ屋さんに行ったら幼
馴染の女の子がスタッフで、施術中
に勃起してしまい誤射してしまった

デスクワークが続いて、肩も腰も足の付け根
までガチガチに凝り固まっていた。

仕事帰り、ふらりと入ったのが近所の「リラク
ゼーションサロン」。

受付で名前を呼ばれ、個室に通されると、ド
アが開いて入ってきたのは——

「え……美波？」

中学以来、会っていなかった幼馴染だった。
制服姿の頃の面影は残っているのに、今は
白いユニフォーム姿。胸元が以前よりずっと
豊かで、腰のラインも柔らかくて、色っぽい。

「久々……。まさかここで働くとは思わなかった」

美波も目を丸くして、「ほんとだ、洋介くん？
びっくりした……」と笑った。

「私専門出てからずっとここでマッサージ師
やってるんだよね」

と言ってきた彼女と他愛もない久しぶりの会
話を暫ししたのち、彼女はプロの顔に切り替
えた。

「じゃあ、うつ伏せになってね。今日は全身コースね」

スウェットのままベッドにうつ伏せになる。

温かいオイルの匂いがして、美波の手が肩に触れた瞬間、体がびくつとした。

中学の頃是一緒に遊んでいただけの女の子が、今はこんなに近くで、優しく、しかし的確に凝りをほぐしてくる。

「ここ、すごく硬いですね……」

指が肩甲骨のあたりをゆっくり押し込む。息が漏れる。

うつ伏せから仰向けに変わる頃には、すでに下半身が熱を持ち始めていた。

仰向けになると、スウェットの生地が薄いのが仇になった。

美波が腕や胸の周辺をマッサージしているうちに、気づいたら完全に勃起していた。